

【学校名】登別市立幌別中学校
【活動の名称】 ありがとう集会・ありがとうの木作成
【活用した資源】生徒会活動、ありがとうの発表、ありがとうの木
【対象学年と活動の時期】全学年 4月、12月

(項目イー観点②絆づくり)

【活動の概要】

- ・学年縦割りによるコミュニケーション活動を実践する。
- ・感謝の気持ちを発表するとともに、「ありがとうの木の実」に記入し、「ありがとうの木」に貼る。

【ねらい】

- ・学期の中で、共に過ごしてきた仲間に支えられた場面を振り返り、仲間の大切さを感じる。
- ・自分を支えてくれる人へあたたかい言葉を伝え合える機会から、思いやりの心を育てていくとともに、いじめを認めない雰囲気醸成する。

【活動の流れ】

- ①ありがとう集会についての説明
- ②学期の活動の振り返り(学年・クラス・部活などでの活動)

③生徒会書記局からのありがとうのメッセージ披露



生徒会書記局が例示することで、この後の活動の見通しをもたせています。



<学期の振り返りの様子>

④先輩や後輩、同級生にありがとうの木の実の記入



自分を支えてくれる人への感謝の気持ちを振り返り、記入しています。



<ありがとうの木の実を選ぶ様子>

⑤「ありがとうの木」に実を付ける

「ありがとうの木」を玄関ホールに掲示することにより、日常的に他者を認め合う気持ちを高めるとともに、いじめの未然防止を意識するよう工夫しています。



<木の実を付ける様子>

【本活動における成果等(留意点含む)】

- ・日常の自分を支えてくれる人たちの思いや行動を振り返ることにより、思いやりの気持ちをもって人に感謝し、いじめのないよりよい学校生活を送ろうと考える機会となった。
- ・集会だけでなく、「ありがとうの木」や「いじめ防止ポスター」を日常的に掲示することにより、いじめの未然防止に向けた意識を生徒にもたせることができた。

【学校名】日高町立門別中学校
【活動の名称】 「いじめ未然防止スローガン」をつくろう 「いじめ根絶集会」
【活用した資源】生徒会活動
【対象学年と活動の時期】全学年 通年

(項目イー観点②絆づくり)

【活動の概要】

- 生徒会の活動として、年度当初に各学級で「いじめ未然防止スローガン」を作成する。
- 年間を通した取組とするため、5月の「いじめ根絶集会」でスローガンやスローガンの実現するための具体的な取組の発表、10月の「いじめ未然防止中間発表会」で取組の中間反省、3月の「いじめ未然防止年間反省発表集会」で年間の取組の振り返りを行う。

【ねらい】

- 生徒会が中心となり、全ての学級において、生徒が主体となって作成した「いじめ未然防止スローガン」を活用して、年間を通して、いじめ未然防止の風土を醸成する。
- 生徒が話し合って決定したスローガンと各教科等の学習や学校行事を関連付け、スローガンを踏まえ、生徒が実践する機会を意図的に設定することにより、自ら考え責任をもって行動しようとする態度を育成する。

【活動の流れ】
「いじめ未然防止スローガン」を活用し、年間を通して、生徒が主体となっていじめを根絶しようとする風土を醸成する取組

〔年度当初〕

- 年度当初、生徒会が、各学級に「いじめ未然防止スローガン」の作成について提案する。



〔5月〕

- 各学級でスローガン「いじめ未然防止スローガン」を作成し、スローガンとスローガンの実現に向けた具体的な取組について、全校集会「いじめ根絶集会」で発表することを通して、全校でいじめの根絶に向けた課題意識を共有する。



〔10月〕

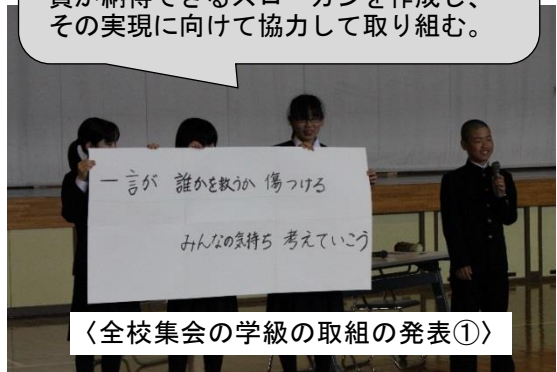
- 各学級において、「いじめ未然防止スローガン」を踏まえた取組の状況や学級の実態について中間反省を行うとともに、反省を基に後期の改善点について話し合う。
- 各学級における話し合いの内容を全校集会「いじめ未然防止中間発表集会」で発表することを通して、半期の成果と課題を確認する。



〔3月〕

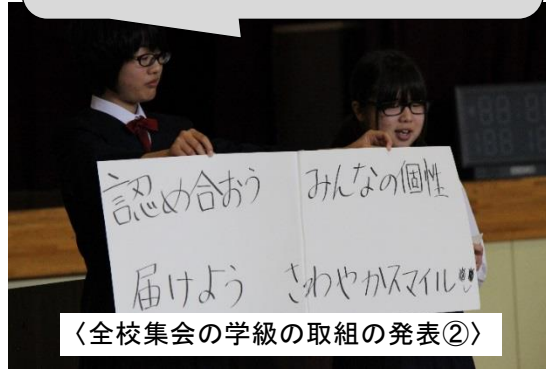
- 各学級において、いじめ未然防止に向けた1年間の取組について振り返り、個人や集団としての成長を認め合うとともに、今後の課題や取組の方向性、次年度の目標について話し合う。
- 各学級における話し合いの内容を全校集会「いじめ未然防止年間反省発表集会」で発表することを通して、学校全体の一体感を高め、自らいじめを根絶しようとする風土を醸成する。

「日常の言葉遣いが大切」、
「個性を認め合える学級にしたい」
など、生徒一人一人の願いを基に、全員が納得できるスローガンを作成し、その実現に向けて協力して取り組む。



〈全校集会の学級の取組の発表①〉

中期（10月）、長期（3月）で、学級の取組を振り返る機会を設定し、学級のよさや成長を確認するとともに、取組を自己点検して、改善を図る。



〈全校集会の学級の取組の発表②〉

【本活動における成果等（留意点含む）】

- 生徒会が提案した「いじめ未然防止スローガン」づくりに、全学級が取り組み、全校集会で発表したり、校内に掲示したりするなど、年間を通じて活用することにより、生徒が主体となっていじめを根絶しようとする風土を醸成することができた。
- 年2回、取組状況を振り返る機会を設けたことにより、いじめ未然防止の検証改善サイクルを確立することができた。

【学校名】日高町立門別中学校
【活動の名称】 全校道徳「スマホ・ネットとあなたの未来」
【活用した資源】 講師：児童生徒とメディアに関する調査研究を行うNPO 法人の講師
【対象学年と活動の時期】全学年

(項目エー観点①居場所づくり)

【活動の概要】
外部講師を招聘し、「スマホ・ネットとあなたの未来」と題して、ネットトラブルの事例を基に、過度なインターネット利用による健康への悪影響やネットトラブルから身を守る方法などに関わる講話を通して、規則尊重、思いやり、親切、節度などの道徳的価値について考えを深める。
また、講話の内容を基に、生徒が主体となったインターネットの利用に関わるルールづくりを行う。

【ねらい】

- ・情報モラル教育を通して、規則尊重、思いやり、親切、節度に関わる内容など、情報モラルに関する道徳的価値について、自分自身の考えを深める。
- ・インターネットの利便性や誤った利用の仕方によるトラブルなど、生徒のインターネット利用の実態に応じた説明を通して、望ましいインターネット利用の在り方について、理解を深める。
- ・インターネットに関わるトラブルの事例を基にした話し合いを通して、ネットトラブルを未然に防ぐ方法について、自らの考えを深める。
- ・過度なインターネット利用による健康への悪影響について理解し、節度を守ってインターネットを利用しようとする態度を養う。

【活動の流れ】
〔当日まで〕

- ・年間取組計画に、情報モラル教室を位置付ける。
- ・ねらいに基づき、専門的な外部講師を選定し、道徳教育推進教師が連絡調整役となって、道徳の時間の年間指導計画に基づき、講話の内容や日程等を決定する。
- ・道徳の時間と各教科等及び学校行事、生徒会活動等に関連付けて、計画的、発展的に指導する。

〔当日〕

- ・外部講師による、ネットトラブル等の事例を通じた望ましいインターネット利用に係る説明を聴講する。



- ・講話の内容を踏まえ、各学級で「インターネット利用に関するルールづくり」について話し合う。

【話し合いの観点】

- ①インターネットによるいじめを未然に防止するために大切なことについて
- ②過度なインターネット利用による健康への悪影響を防ぐための生活習慣について



《話し合いによって決定した門別中学校のインターネットのルール》

- ・夜9時以降、スマートフォンやタブレットなどは使わない。(規則の尊重、節度)
- ・メールやSNSに書き込む時は、個人情報等、書く内容に気を付ける。(思いやり)
- ・自分自身を犯罪から守るため、位置情報や個人情報を掲載しない。(責任)

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・専門的な外部講師による説明を踏まえ、生徒が自分たちでルールを考えることにより、自ら節度を守って生活しようとする態度を育成することができた。
- ・生徒の生活習慣の実態に応じた事例を基に、思考を喚起することにより、一人一人がインターネットに関わるトラブルに巻き込まれることへの危機意識をもって、考えを深めることができた。
- ・ルールをつくることが目的ではなく、生徒がルールについて話し合うことを通して、規則尊重、思いやり、親切、節度等の道徳的価値について、自分の考えを深めることができた。

【学校名】木古内町立木古内中学校
【活動の名称】 生徒会による絆づくり全校集会
【活用した資源】生徒会活動
【対象学年と活動の時期】全学年（11月）

（項目エー観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・生徒会が「絆作り」をテーマに企画したレクリエーションを行い、親交を深める。
- ・アクティビティで普段起こりうる問題の具体的な解決策を学ぶ。

【ねらい】

- ・生徒会執行部を中心に、生徒による企画運営を通し、自主性を育む。
- ・異学年集団による活動により、人間関係やコミュニケーション能力の基礎を養う。

【活動の流れ】

- ①生徒会役員（執行部4名・専門委員長4名）、第3学年委員長1名、計9名が中心となり、集会の内容を考え、準備を進める。
- ②1～3学年を8グループに編成し、①の9名が1名ずつ、グループリーダーとなって進める。1年生が緊張しないようグループ編成を配慮する。
- ③コミュニケーション活動をグループごとに実施する。



話し合い活動の前に、グループ内で打ち解けることができるように、コミュニケーション活動を行います。

- ④アクティビティで「過ごしやすい学校」について考える。
- ⑤グループごと集まり、個人（一つずつ）→グループ（一つずつ）で作成する。



一人一人が真剣に考え、グループ内で発表したあと、グループで一つの掲示物に貼っていきます。

協議で使用したシートを投映し、全体で交流します。



- ⑥各グループでの掲示物を生徒会執行部で集約し紹介する。
- ⑦グループ協議の結果を全体で交流し、「過ごしやすい学校」にするために取り組むことを話し合う。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・さまざまな行事や活動を通じて、仲間とともに協力し意欲的に取り組む生徒が増えた。
- ・異学年交流の実施により、礼儀や相手を思いやる気持ちを育むことができた。

【学校名】上ノ国町立上ノ国中学校
【活動の名称】 体育祭活動
【活用した資源】体育祭実行委員会
【対象学年と活動の時期】全学年 4月中旬～5月中旬

(項目アー観点②絆づくり)

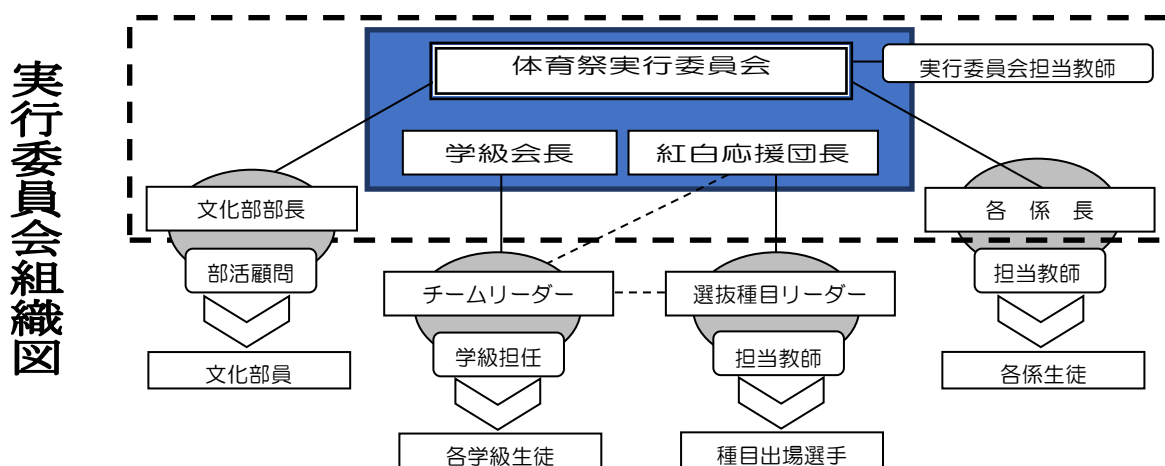
【活動の概要】
・実行委員会を中心とした生徒主体の活動を企画・運営し、生徒間の交流を深める。

【ねらい】
・実行委員会を中心とした生徒主体の体育祭活動を通して、自治的・自律的な態度を育成する。
・異学年との交流を通して、互いに認め合い、協力して活動しようとする協働の心を育む。

- 【活動の流れ】
- ①実行委員会が中心となり、体育祭の活動の提案を行う。
 - ②A組を紅組、B組を白組として、縦割りの組織をつくる。
 - ③応援団長や種目・チームリーダーが中心となって、練習計画を立て取り組む。
 - ④異学年の取組に重点とし、互いを支え合える活動を展開する。
 - ⑤体育祭後に全体と各係の解散式を行い、活動の反省を行う。
 - ⑥実行委員会が反省を集約し、全校にお便りとして発行する。
 - ⑦学級ごとに体育祭の感想文を書き、学級通信等で想いを共有する。



<活動の様子>



<体育祭後の感想文の中の保護者・生徒の声（抜粋）>

- ・体育祭を通して、息子の成長が一年ごとに大きく変わっていくのが分かりました。先輩を見て、憧れの存在から自分が前に立って、皆を引っ張っていく強い思いを、自ら行動に移して実行できた息子の成長を親としてとてもうれしかったです。この経験がこれからの学校生活の中で、自分の役割を見つけて行動する一歩になったのではないかと思います。
- ・最後の体育祭、私は一、二年生をきちんと引っ張って行けるだろうかと、とても不安がありました。自分の思いを上手く伝えたい。今までは伝えてもらう側だったので、あまりそのような経験をしたことがありませんでした。しかし、いざ伝える側になると、どのように言えば相手に伝わるのかが、よく分からなくて、とても苦労しました。さらに、注意の仕方ではあまり厳しくすると、やる気がなくなるかもしれないことや、優しく言っても流されてしまうかもしれないなど、悩みました。でも、練習をしていくうちに、私の思いを理解しようと努めてくれていたので、その苦労や悩みは小さくなっていきました。いよいよ本番、私は不安と緊張でいっぱいでした。でも、一、二年生たちは、その不安を消し去るように、たくさんの活躍をしてくれました。大丈夫かなと心配していたのが馬鹿らしく思えるくらいでした。それくらい活躍してくれました。解散式では、一、二年生みんなが、私たち三年生に「ありがとうございました。」と言ってくれました。今まで頑張ってきて良かったなと心から思いました。たくさんの苦労や不安がありました。でも、それを乗り越えることができたのは、仲間たちのおかげだと思うので、これからはもっと仲間を大切にしていきたいです。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- ・異学年との取組を通して、先輩の行動に尊敬の念を抱く生徒や学年を越えて協力し合うことの大切さを理解することができた。
- ・仲間意識が高まり、協力し合って生活することができるようになった。
- ・生徒の自主的な活動を進めることで、自分たちで考えて行動する生徒が増えた。
- ・生徒全体が規範意識をもつことで、きまりを守ろうとする姿が多く見られるようになった。